

何気なく手に取ったチラシ、そこに書かれていたのは「のぞいて・語って・分析しよう*今どきの性情報と恋愛像」。

「あら、なんだかおもしろそうじゃない。ココに行けばなにかある気がする！」根拠のない確信を持ってわたしは参加を決意した。自分が何をしようとしているのかはつきり分からないまま、お気楽な私は「まあ、とりあえず関わってみよう」と軽い気持ちでSEAN号に乗り込んだ。

暑い夏のある日。緊張しながら調査会議に初参加。調査スタッフとご対面。この日一番の衝撃は「みさりん」という愛称。そして年齢不詳の大人たち。なんだか家族会議にでも紛れ込んでしまっただかような気になった。和やかな雰囲気で話し合いは進み、ひとまず皆いい人たちそうだと安心し

たのを覚えている。

調査、調査、調査……って何するの？？とにかく、マンガを読んでもみよう、とのこと。「何か見えてきたものはありますか？」……。「少女コミック』はやたらキスシーン多くて、『ジャンプ』はやたら殴ってばっかしやなあ」「それを具体的に数値で表現できる？」……「おお。調査とはこういうことなのですね。かくして、私の初航海が始まった。地味なカウント作業をもくもくと続けるなかで、本当に進んでるのか？と不安になりつつ、とにかく前に進めなきゃ、との思いで必死の日々を過ごす。そんな中、常に言われていたことは「一般ピープルが分かるように書いてな」。この言葉は硬くなつた私の思考を解きほぐしてくれた。だけど、これはいい加減で良いってことではない。適度な緊

張感を維持しつつ、航海はつづく。

年末年始、いよいよ調査も大詰め。マンガや雑誌を読み込んで感じたこと、気づいたこと、思いはどんどん膨らむ。しかしまだそれは漠然とした印象でしかなく、「どうすれば伝わる表現になるのだろうか。説得力があるのか。効果的なのか」が分からない。たどころに全てが了解される魔法の「一言」はない。そう、一息に全てを語ることはできず、一つずつ順番にしか言葉は紡げないのだ。その上で各々の主張がどのようにリンクしているのかをいかにクリアに表現するか。これこそが私にとって報告書記事執筆における最大の課題だった。事務所に缶詰になった。苦しい時期が続いた。

次第に事務所は騒がしくなつた。「ギャー。わー……ひゃあ。」いろんな悲鳴があちこちから聞こえてくる。もちろん私もその一人。一度は7割がた完成した原稿ファイルが損傷して開けない危機に陥った。修復ツールでなんとかセーフ。あの時は本当に泣きそ

うになった。煮詰まってどうしようもなくなつたりしたけれど、1人きりじゃなかったから踏ん張ることができたんだと思う。できてしまえば、あっさりとしたもの。だけど、これをまとめる背景にある資料の山を私は知っている。一文、一語、一句に込めた思い。たくさんの人に満足してもらえようかな読み物になつていたらいいな。

右も左もわからぬまま、ふらりと迷い込んだ私を温かく受け入れてくださったSEANの皆様、どうもありがとうございます。SEANでは本当に多くを学びたくさんの得がたい経験ができました。今後SEANがどうなっていくのか、私とSEANの関係はどうなっていくのか、楽しみながら不安なような(笑)とにかく、ここに一つの良い出会いがあったことは確かなので、それがより良い方向へと発展していくことを心より願って、終わりにしたいと思います。皆様、お疲れ様でした！そしてありがとうございました！

SEAN号 初乗船記録

調査研究スタッフ 久津輪 麻美